

★ベルナーツカバ便り★

チェチェン共和国でのホームステイ2 (セルナボドスク)

田牧 陽一

ホームステイ先として滞在したのは、首都グロズヌイから40キロほど西にあるセルナボドスクと言う町で、車で約40分です。グロズヌイからの道路は舗装状態もよく、街灯も整備されています。この道路は、バクー (アゼルバイジャン) まで続くカフカス地域の主要道路に位置づけられ、整備が進められています。

セルナボドスクは、ソ連時代から良質の水が得られる地として有名です。水はわずかに酸味が有りますが、病を癒す効果が有るとされ、この水を使った療養施設なども整備されています。モスクワではこの水は見かけることはありませんが、グロズヌイでは良く売られています。

街中では、大きな門構え家が立ち並び、各家々が敷地内に幾つかの家を持つのが一般的です。また、親族同士が近くに住むのが習わしで、アミールの一族では、50人ほどが近所に住んでいます。散歩に出るたびに、近所の家々を、母の兄弟や、父方の親戚の家等、細かく教えてくれました。

さて、チェチェンを始めコーカサス地域では、「客」を家に招くことに特別な意味が有ります。客人は、高い尊敬の対象



とされ、一番いい食事と、食器でもてなされます。また、宿泊する場合は最もいい部屋で、最もいい寝具を使います。これは、その人の身分に関わらず、たとえ家族を差し置いてでも、もてなされます。アミールの家では、彼のお母さんがチェチェンの伝統料理、ジジク・ガルナシ (жижиг галнаш) を作ってくれました。これは、チェチェンの伝統料理で、塩ゆでした肉を、スープにつけて食べるものです。付け合わせにうどんのようなこねた小麦粉を茹でたものと一緒に食べます。肉の塊をそのまま食べるのですが、肉に脂が少ないので割とさっぱりとした味です。客に対して最高のもてなしをして、満足して帰ってもらうことはこの地域における美徳の一つであり、世代に関わらず尊重されています。

全体的な印象として、セルナボドスクは静かな住宅街という雰囲気です。警察官の姿もなく、多くの家々が施錠もせず、門を開けたままにしています。道を行く人の殆どが知り合い同士で、ちょっと買い物に行くにも、何人にも挨拶をします。コーカサスの伝統と、人情を感じることができる地域でした。

とされ、一番いい食事と、食器でもてなされます。また、宿泊する場合は最もいい部屋で、最もいい寝具を使います。これは、その人の身分に関わらず、たとえ家族を差し置いてでも、もてなされます。アミールの家では、彼のお母さんがチェチェンの伝統料理、ジジク・ガルナシ (жижиг галнаш) を作ってくれました。これは、チェチェンの伝統料理で、塩ゆでした肉を、スープにつけて食べるものです。付け合わせにうどんのようなこねた小麦粉を茹でたものと一緒に食べます。肉の塊をそのまま食べるのですが、肉に脂が少ないので割とさっぱりとした味です。客に対して最高のもてなしをして、満足して帰ってもらうことはこの地域における美徳の一つであり、世代に関わらず尊重されています。

~~~~~ <新刊紹介> ~~~~~